



いきいき通信

139号 (28年11月号)

iki iki - tushin

Take Free!

内外から高い評価。第10回全国水源の里シンポジウムが終了

熱のこもった議論が展開されたシンポジウム

10月26日(水) 京都府中丹文化会館において、シンポジウム実行委員会(委員長：山崎善也綾部市長)が「第10回全国水源の里シンポジウム」を開催しました。山崎市長が同じく会長を務める全国水源の里連絡協議会に参画する自治体から35自治体が参加。福知山市や舞鶴市など近隣市町村のほか、綾部市などからの参加者約900名が会場を埋め尽くしました。

発足時から綾部市の水源の里連絡協議会会長を務められてきた酒井聖義氏への特別表彰授与が行われた後、441点の応募作品から選ばれた「第8回全国水源の里フォトコンテスト」の表彰式とともに、前日本写真家協会会長の田沼武能氏による講評がありました。

「今を幸せに生きる」と題した基調講演では、東京大学名誉教授の養老孟司氏が「現代社会が都市化、グローバル化」という名のもと「同じ」方向へ向かって動いている。人は同じ方向へ向かうことで安心し、経済的で合理的な素晴らしい世界であるかのように錯覚している。しかし、実際には「同じもの」は世界中どこを探してもない。他のどことも同じではダメで、まず住民が「違いのわかる感性を磨くことが大切だ」と講演されました。

基調講演のあとには、水源の里事業の足跡と14の水源の里集落を紹介したビデオプレゼンテーション「立ち上がる集落の挑戦 水源の里の10年」が上映。酒井会長はビデオの中で「10年前、こんなことはもう遅いと思った。しかし、やってやろうという住民の意気込みがあった」と語られました。また水源の里・市志の阪田薫氏は「これからも続いてほしい、そのためにしなくてはならないことをしていきたい」と続けた後、ビデオは「水源の里の挑戦はこれからも続きます」というナレーションで締めくくられました。

その後、水源の里・老富の西田昌一代表と水源の里・古屋の渡邊和重代表による実践報告がありました。西田代表は、「住民に目標ができて地域全体が活気づき、笑顔と笑い声が山間に響き渡っている。これからも明るく元気に無理をせず、長く活動を続けていきたい」と話されました。

実践発表の内容を受け、水源の里を考える会座長の嘉田良平氏、移住1%戦略提唱者で島根県中山間地域研究センター研究統括監の藤山浩氏、フリーアナウンサーの小谷あゆみ氏、山崎市長がシンポジウムの副題「水源の里が創る新しい時代」をテーマに、パネルディスカッションを行いました。山崎市長は「今の田園回帰の動きは本物だと感じる。これまでやってきたことは間違いなかった。今後は、親や祖父母世代にも、子ども達に胸を張って「故郷に帰って来い」と言えるふるさと教育を浸透させること、他と差別化を図った定住促進施策に取り組んでいきたい。」と語りました。

また中丹文化会館ホワイエでは水源の里物産展、写真展のほか、水源の里集落で創作活動に取り組むアーティストであるトレーシー・グラス氏(老富)、松本健宏氏(古屋)、小池靖氏・小池由佳子氏(金河内)による作品展も開催され、参加者は作品に見入っていました。

シンポジウム終了後には、会場を京綾部ホテルに移して交流会を開催。水源の里・市野瀬のシャンソン歌手ミッシェル・フロー氏、あやべ太鼓保存会による演奏が披露され、会場を盛り上げました。

「水源の里集落の現況」など現地視察研修

翌日27日(木)には水源の里など東部地域、志賀郷など西部地域、市内散策の現地視察研修が実施され、参加者約100名が6つのコースに分かれ、地域の住民からその取り組みを直接聞き、学びを深めました。

水源の里光野・老富コースでは、光野の希少植物や於見の大太鼓を活かした交流の取り組みの説明や大太鼓の試し打ちが行われました。老富では大唐内に住むアーティストのトレーシー・グラス氏による20年の経験と水源の里の素晴らしさが紹介されたあと、水源の里・老富の活動、特産品の栃餅が紹介されました。



酒井氏への特別表彰授与



養老氏の講演は会場の参加者を惹きつけた



水源の里の取り組みを紹介する山崎市長

水源の里・光野が4回目となる交流イベントを実施

11月6日(日)水源の里・光野で交流イベントが実施され、約60名が参加しました。

渋谷代表から参加者への謝辞と今年新調された大太鼓台の紹介があり、続くスライドショーでは光野の銘木やコスモス栽培などの取り組みが紹介されました。昭和28年の台風13号による被害や30年前の旅行の写真なども披露され、会場からは昔を懐かしむ声があがっていました。また、ドローンを使った光野の紹介映像などが上映され、参加者は水源の里活動への思いを募らせていました。

お昼には山崎市長がお祝いに駆けつけ、参加者にふるまわれた山菜いなり、つきたてのお餅を味わい交流会を盛り上げました。また、十二所神社や大桂の見学、中丹太鼓おもてなし隊による太鼓演奏が行われ、オリジナル曲「由良川」は、川のうねりや息吹が伝わるような迫力の演奏でした。

渋谷代表は、「おかげ様で4回目の交流会を開催することができた。光野には紹介したように様々な魅力がある。これからの活動にも是非協力して欲しい」と今後の抱負を話しています。



息の合った演奏を披露した中丹太鼓おもてなし隊

「こぶしの家」が文化祭を開催

10月28日(金)、中上林のこぶしの家で高齢者サロンを運営するボランティアサークル そらまめ(古和田美砂代表)が文化祭を開催されました。この日約100名が参加し、うどんやぜんざい、野菜が販売されたほか、活動支援のためのバザー、地域の方々の作品展が開催されました。

平成9年から続く活動は、現在21名のスタッフで運営。「細く長く続ける」を目標に、イスなど施設設備は持ち寄りで開催されるなど、大変な熱意で継続されてきました。

サロンは毎週月・金曜日に開催。一人700円でどなたでも参加でき、あやべ福祉ボランティアの往復送迎が利用できます。

「多くの人のご協力のおかげ。これだけ長く続けられてうれしい」と話すスタッフは、「一人暮らしだと外出や食事がおっくうになる。診療所などの帰りに立ち寄っていただき、温まってもらいたい。12月19日(月)のクリスマス会では、健康教室のあとには特製のカレーもあるので、ぜひ参加してほしい」と話されました。



作品展では中上林住民の作品が展示

大好評だった「シイタケの菌打ち体験」今年も実施

市志里山再生の会(阪田薫代表)は、交流拠点「どんぐりの森」の木材を使ったシイタケの菌打ち作業が体験できるもイベントを開催します。定員間近ですので、下記お申し込み先まで、お早めにご連絡ください。

【日時】12月3日(土)10:00開始(市志公民館集合)15:00終了予定〔雨天決行〕

【募集】参加費1,500円(昼食代、保険料、菌打ち原木3本含む)で先着15名(小学生の場合要保護者同伴)

【持ち物・服装】飲み物、軍手、タオル、雨具などを各自持参。服装は長袖、長ズボン、長ぐつ又は滑りにくい靴

【申込先】市志里山再生の会 代表 阪田薫 メール:sakata1123@leto.eonet.ne.jp 携帯:090-7365-9602

告知

美しい上林川を守る身近な活動にぜひご参加を!

上林川を美しくする会(川端勇夫会長)は、ボランティア清掃活動「上林川環境美化大作戦」を実施します。

【内容】上林川及び支流の川辺に捨てられた空き缶、空き瓶などのごみ拾いを各地区単位で行います。実施される地元自治会で、清掃活動にぜひご参加ください。

【日時】12月10日(土)午前中に1時間程度

【集積場所】奥上林、中上林、口上林の各地区公民館

【集積時間】午前10時30分までにごみを各集積場所に集めてください。事務局が順次収集します。

【問い合わせ】上林川を美しくする会事務局(市役所環境保全課管理担当)電話42-1489

告知